

- 4. 9日(金)・14日(水)事務局がお休みをいただきますのでよろしくお願い致します。
- 5. 来週は3階のクラウンホールが例会場になりますので、よろしくお願い致します。
- 6. 来週例会終了後、第4回50周年記念事業実行委員会を開催いたしますので、よろしくお願い致します。

出席報告

会員数	計算に用いた 会員数	出席	出席率	前々回の修正 出席率
56名	52名	40名	76.92%	100%

欠席者 安保・伊東・岩崎・小林・前野・松田・宮路・奈良橋・大野・大貫・山田・吉岡 以上12名

他RCへの出席者 大野(3/24長泉)前野(3/25静岡東)小林(3/26せせらぎ三島)山田(3/30新富士)伊東(3/31長泉) 以上5名

こんにちは、ようこそ

ゲスト SBS報道制作局情報センター 岸本達也様
総合警備保障(株) 沼津支社長 牧村久夫様
ビジター 井上元君(御殿場)
大森清治君(御殿場)

おめでとう

結婚記念日 萩田勝雄君 1968.4.12

スマイルボックス

後藤全弘君・萩田勝雄君：結婚記念日のお祝いありがとうございます。

山本倫弘君：岸本様よろしくお願ひします。

羽野久雄君：先日の門池公園清掃奉仕欠席で申し訳ありません。

齋藤利一君：ゲスト紹介 牧村久夫さんです。

委員会報告

社会奉仕委員会 3/27 門池公園清掃
会員30名と沼津中央高校インターアクトクラブの生徒さん合わせて36名で、門池公園の清掃を行いました。



卓話

地方局の底ヂカラ

一執念が生んだ、いくつかの奇跡ー
『日本兵サカイタイゾーの真実』制作現場から
SBS報道制作局 情報センター 岸本達也様

放送から2ヶ月が経過した昨年7月下旬、小雨の降りしきる中、坂本泰三さんの二十三回忌が営まれた。65年前、太平洋戦争末期最大の激戦地・硫黄島で戦った坂本さんは、米軍に投降した際、自らを「サカイ」と名乗った。



番組は、硫黄島での坂本さんの一連の行動に焦点を当て制作。アメリカ国立公文書館で発見された「サカイ」の尋問調査書には、日本軍の組織、軍備、そして暗号に至るまで事細かに記されていた。「サカイ」は硫黄島総指揮官・栗林忠道陸軍中將の通信兵として戦い、自ら知り得ることができた日本軍の機密を米軍に提供していたのだった。また、尋問に当たった元米兵は「サカイは我々にとっても協力的だった」と証言した。

終戦後、坂本さんは復員し、40年近く戦後を生きた。取材を進めていく中で、坂本さんが家族に対して、自らの戦地

での「出来事」について、何も語らなかったことを知った。

尋問の際、「サカイ」は米兵に家族の写真を渡している。そして、裏にある言葉を残した。「O ma Douleur(おお、わが「苦悩」よ)」。坂本さんは画家を夢見て、仏語を学んでいたという。しかし、戦後、本格的に絵を描くことはなかった。祖国を、戦友を裏切ったことへの「苦悩」だったのであろうか。「サカイ」という別人に成り済ますことによって、あるいは、その「苦悩」を覆い隠そうとしたのかもしれない。生涯、それを口にすることもなく逝った。私は家族に「サカイ」について、「父親の戦争」について告げた。

もうすっかり雨もやみ、少し晴れ間が覗いている。坂本さんの墓前には花が供えられ、周りを子や孫たちが囲んでいる。もしあの時、「サカイ」として生き残ることがなければ、ここにいるほとんどの人は、いま存在していないだろう。「これで父もやっと安らかに眠れると思います」。法事に誘ってくれた長女がぼつりと言った。坂本泰三さんは、死よりも苦しい戦後を生きたのかもしれない。しかし、自らの「苦悩」と引き換えにいくつかの命を繋いだ。いま、その命ひとつひとつが、父親の「真実」を受け止め、「苦悩」を包み込もうとしている。その優しい眼差しに、改めて戦争の愚かさを思う。